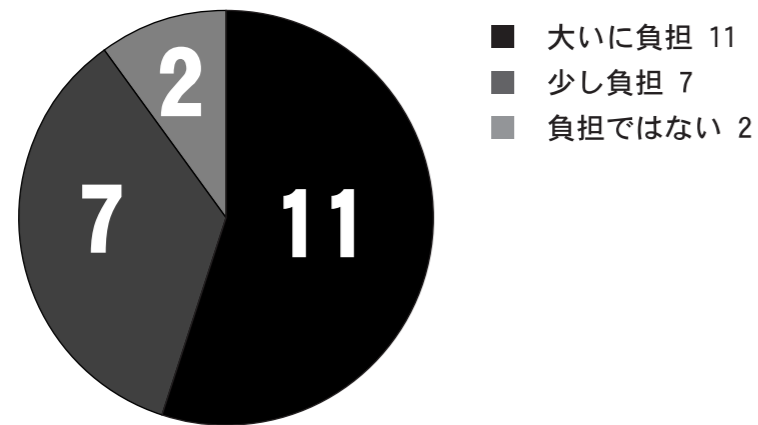


III オンライン授業について

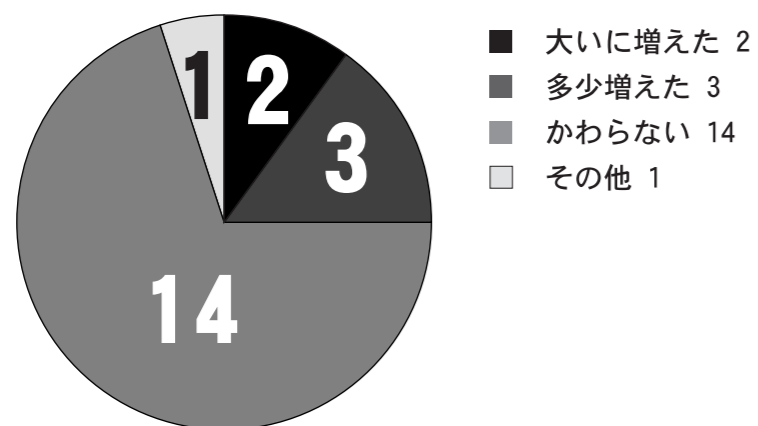
1 毎週の課題について



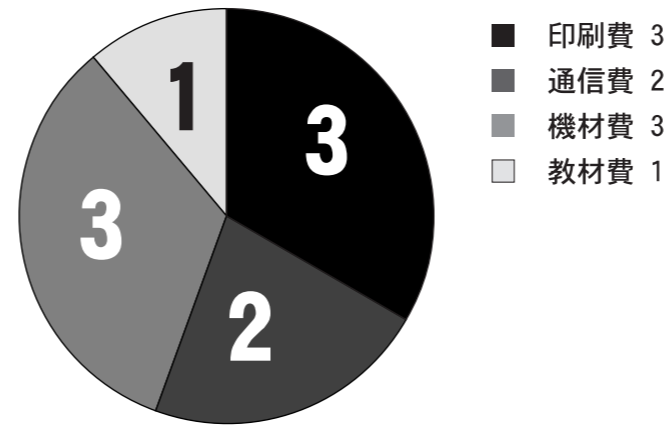
2 具体的に負担を感じる事(抜粋)

- ずっとパソコンに向き合っていなければならないこと。オンライン授業が原因で肩こりや頭痛が起り、通院している。
- ほぼ全ての授業で毎回課題が出されるため、一つ一つの負担は大きくなくても全体としてかなりの負担になっている。サークル活動もなくアルバイトも減っているにも関わらず、授業時間以外をほとんど課題に費やしていた気がする。本当に気が滅入った。
- 先生方もはじめてのことで慣れていないことは分かっているが、学期末に課題が集中しすぎると課題に生活が圧迫されて健康的な生活を送れない。(せめて課題提示から提出までの期間をもう少し伸ばしてほしい)
- 毎週スライドだけを公開し、課題を生徒に課す授業が負担が大きく、その上教授から講義を受けている実感もない。あのような形態を認めている大学側にも問題があると思う。
- 対面より時間を奪われる。

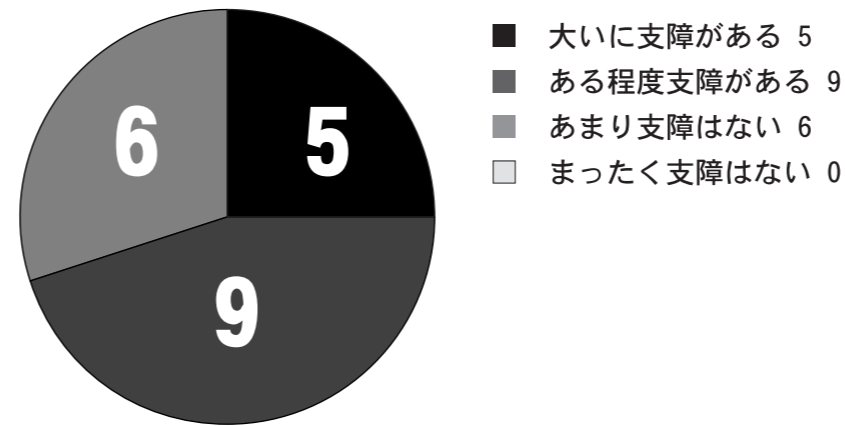
3 オンライン授業に伴う支出について



4 支出が増えたものについて



5 オンライン授業とサークル活動の両立について



6 オンライン授業にたいする意見(抜粋)

- オンラインだけではもう限界です。
- 秋学期どのような状態になるかわかりませんが、せめてシラバスにリアルタイムの授業なのかそうでないのかは記載してほしい。

文連常任委員会から一言

毎週一方的に課題が提示され、ひたすらそれをこなすだけのオンライン授業は、私たち学生のみならず先生方にも身体的・精神的負担が大きすぎます。これではサークル活動もままならないという声が多く、サークル員から寄せられています。秋学期もオンライン授業が基本となることが発表されているなかで、このような現状にこれ以上我慢なりません！

春夏学期の全授業オンライン化にたいして、早大生から不満の声が噴出したことに驚き慌てた早大当局は、秋学期以降は一部で対面授業を開始したり、学生間の交流の場を設けたりすることを打ち出しています。文連常任委員会では、アンケート結果を受けて、オンライン主体の授業形態のさらなる見直しを大学当局に求めていきたいと思っています。

アンケートの中間集計結果は以上です。アンケートにご協力いただいたサークル員のみなさん、ありがとうございました。そして、まだの方はぜひ、下記のQRコードにアクセスしてみてください。コロナ下でサークル活動の制限を余儀なくされていますが、こんな時だからこそ、サークル間の団結をより強め、早稲田サークル文化の未来をみんなで切り開いていきましょう。文連常任委員会はその最先頭で今後も奮闘する決意です。



アンケートはこちら



文連ツイッター

